■ 静岡医療コミュニケーション研究会

S・M・C

Shizuoka Medical Communication

July 2000 創刊号

十分な説明と同意のために
静岡済生会総合病院で模擬患者セミナー

6月8日（木）午後6時より、静岡済生会総合病院で、模擬患者を使ったセミナーを開きました。これは、済生会総合病院の医療者を対象にした研修会で、模擬患者の練習を積み重ねてきた市民ボランティアが成果を披露しました。

セミナーには、奈良県立医科大学の藤崎和彦先生（詳細は3面）と*COMLで模擬患者をしている藤原恒昭さんを迎え、盛況のうちに行われました。

※ささえあい医療人権センター COML
（Consumer Organization for Medicine & Law）
患者中心の開かれた医療の実現を目指し、模擬患者の育成等様々な活動を行っている大阪のボランティアグループ

温かい医療を築くために

静岡済生会総合病院で初めての模擬患者セミナーを開催しました。静岡医療コミュニケーション研究会のボランティアの方々、院内各職域の職員の参加を得、盛大な会になりました。講師の藤崎先生は、私ども医療者は患者さんが求めることにどの様にアプローチすべきであるか、患者さんが抱いている不安に如何に接するべきかを、共感・傾聴という観点からお話になられました。医療面談の実習では、若い医師・看護婦が実際そのままに演じ、観察者は普段自分たちが気づかない診療上のコツなどを勉強できました。このような積み重ねが市民の方々に安心してもらえる温かい医療を築くものと考えております。

ファシリテータ（静岡済生会総合病院副院長）
佐橋正文

医療面談を体験した医療者から一言

●今回医療者としてセミナーに参加して患者さんの立場からの意見を耳にし、信頼を得ることのできる医療というものの難しさを改めて感じました。
（中村豊さん　医師）

●患者さんの訴えを聞き、不安と苦痛を取り除く手助けをするというのが、医療者のあるべき姿かと思います。今回、患者さんの生の声を聞くことができ、大変勉強になりました。
（山崎正俊さん　医師）

●患者さんの深刻で不安そうな表情をみただけで、何と声を掛けていいのかと考えてしまいました。うまく対応することが出来ませんでしたが、コミュニケーションの振り返りができて良かったです。
（望月美佳子さん　看護婦）

模擬患者を演じて

「患者の思いを受けとめて…」

模擬患者にはそれぞれにシナリオがあります。患者の家族構成、生い立ち、生活状況、現病歴、病気に対する思い…。でも一番大事な事は、医療者に対して何を伝えたいかという「ねらい」の部分です。これらすべてをイメージして、自分らしく患者を演じる訳です。その方法として、一週間の生活の様子を考え、一日の生活配分を考え、少しでも患者の世界に近づこうとしています。

今回私が演じたのは、ガンの告知を受ける場面です。短時間の医療面談の中で、医療者は私にわかりやすく具体的に説明していただけたので、温かさと信頼感を持ちました。でも、私の心に湧いてきた思いは何か違うのです。ガンだとはっきり言われ、頭の中は真っ白！これからどうなるのだろうという不安と恐怖に揺れ動いていました。この思いを受けとめて、ほんの一時でも共有してくれたなら、私は気持ちが楽になったかもしれません。

模擬患者は、この感じた思いを言葉にかえて、医療者にフィードバックするのです。気持ちのキャッチボールをすることがとても大事なことだと思いました。

市民ボランティア　大村節子

《セミナーを終えて》

梅雨入りした日の大雨が、私の心の不安と緊張に拍車をかける。初の模擬患者デビューだ。長かった12分間が終了した後、安堵と不安が入り混じった複雑な感じがした。セッション中の沈黙は私の課題であったが、藤崎先生のその時々の対処で良いとの指導に、胸のつかえがとれ、爽快な気分となった。

外の大雨もいつしか小雨に変わっていた。

市民ボランティア　気田千恵美

模擬患者セミナーをみて一言

ＳＰ（模擬患者）の必要性を痛感

静岡市内での２回目の開催（前回は県立総合病院で実施）ということもあって、期待しながら参加しました。前回を上回る参加者の前で静岡のＳＰ２人のフィードバック（医療面談のあとの感想、気持ちを医療者に伝えること）の際の落ちついた話し方は、活動を始めた頃に比べ格段の進歩がうかがえました。

最後まで自らのペースを保持しつつ、医療面談が行えたのも良かったと思います。セミナーを通して、この医療コミュニケーション活動の必要性を痛感した次第です。

市民ボランティア　森田みつ子

相互の人間関係を高めるために

インターネットや携帯のメール。人々が面と向かっての会話をしなくなっていく時代で、医療の場における意志の疎通はどうなるのでしょうか？医療者が患者さんとのコミュニケーション技術を学ぶこのセミナーは、病気になってしまった人の不安・葛藤を共に分かち合い、相互の人間関係を高めるために必ず役立つと思います。

今回は医師・看護婦のセミナーを行いましたが、薬剤師のシナリオもあり担当のＳＰも静岡病院での９月の出番を待ちかねています。

ファシリテータ（市立静岡病院薬剤師）
勝山　徹

医療コミュニケーション技術向上のために

藤崎　和彦さん

奈良県立医科大学衛生学教室
（専門：医学概論 医学教育学 医学行動科学）
「医療記録の開示をすすめる医師の会」事務局長
共著・訳書に
「医師のための医学情報開示入門」
" History of the Doctor-Patient Relationship"
（共著）他があります。
静岡医療コミュニケーション研究会発足当初から、模擬患者の養成にご協力いただいています。

＊ＳＰ（Simulated Patient 模擬患者）とは－
架空の患者の性格・生活環境・生い立ちなどを細かく設定し、症状を持った患者になりきって医師・看護婦などと模擬面談をはじめとするコミュニケーション・トレーニングを行います。そのあとに、ＳＰとして気づいたこと、感じたことを率直に医療者に伝えます。

ＳＰ（模擬患者）トレーナーとしての活動を始めたきっかけは‥‥

◆92年頃に「模擬患者を使う教育はやはり効果があるね」「日本でも模擬患者を養成しなければいけないね」と筑波大学にいた大滝先生をはじめ、そのような事に関心のある大学の先生方と話をしていました。

医師に対する面接技法教育・ロールプレイは以前からありましたが、設定はあまり細かくありませんでした。また、学生同士だと社会経験や人生経験がないし、照れもあり、もうひとつという感じでした。

何か良い方法はないかと思っていた時、COML代表の辻本さんがアメリカの医学校で市民や俳優の卵が模擬患者として医学教育のお手伝いをしているのを見てきて、「是非、私たちもやってみたいな」ということになり、始めたのがきっかけです。

ＳＰ（模擬患者）が医師国家試験に採用されると聞きましたが…

◆４年ごとに国家試験のガイドラインの見直しがありまして、「平成17年度から組み込まれるのではないか」と言われています。今回の医師国家試験でも医療面談を想定した会話文があり、『望ましい医師の応答を選べ』といったものが出題されていました。このように医師国家試験自体が変わってきたのは確かです。

現在の状況や問題点は…

◆模擬患者のグループも30団体ぐらい、模擬患者さんも200人を超えているとも言われています。医師国家試験に医療面談を導入するには250人ぐらいいれば可能かなと、夢でもない数にはなっている感じです。

模擬患者セミナーも私が関わっているだけでも年間50～60回は開催しています。

問題はそれに見合ったファシリテータが、つまり医療面談を活用して教育する側の教育が今の課題ですね。ちょっと急がないといけないという感じはあります。

静岡のＳＰ（模擬患者）に対する今後の課題や問題点について…

◆いろいろな模擬患者グループがありますので、どのような形が一番良いというものはありません。活動していく中で、身についてきたり、変わってくる部分も数多くあると思います。ファシリテータとはお互いにやっていく中で意見が一致する部分もあるし、模擬患者にしても技量が上がってくるということもあるので、とりあえず演技する場をある程度作っていくことが必要ですね。

患者さんと共に歩む医療を目指して

患者さんからの医療情報は病気の診断上重要で、正確に聞き出さなければなりませんが、この時、患者さんの気持ちに十分配慮することも医療者には不可欠です。また、患者さんに対しては、病気や治療法を分かりやすく、納得が得られるように説明する能力が要求されます。このような患者さんから医療者、医療者から患者さんへという両方向性のコミュニケーション技術の習得は難しく、実地のトレーニングが必要です。私たちはこのようなコミュニケーションの練習台となる「模擬患者」を育て、医療者への面談技術の向上に役立てたいと考えています。

この会は、静岡市保健所の企画で結成された市民ボランティアの会で、模擬患者役の一般市民を中心に、医師・看護婦・薬剤師が加わり、約40名で毎月1回練習会を開いています。患者さんと医療者が互いに協力して治療できるような医療を目指しています。市民・医療者どちらでも、興味のある皆様の参加をお待ちしております。

静岡医療コミュニケーション研究会
代表　渡辺　恵

「かしこい患者になりましょう～情報開示の時代を迎えて」
辻本好子さん（左）と新居昭紀さん（右）の対談

これからの活動予定

○模擬患者による医療コミュニケーションセミナー
日時：9月8日（金）午後6時～8時
場所：静岡市立静岡病院西館12階講堂
内容：静岡病院の医療者を対象に、模擬患者によるコミュニケーショントレーニングを行います。
申し込み：一般市民の皆さんの見学は自由です。当日、直接会場へお越しください。

○医療講演会「セカンドオピニオンって何？」
日時：10月14日（土）午後1時30分～4時
場所：アイセル21　4階研修室
講師：袴田康弘さん（県立総合病院総合診療科医長）
内容：医療診断を受けた時、もう一つの意見を聴きたいと思いませんか。講演を聴いて、グループディスカッションに参加してみませんか。
申し込み：9月15日号の広報しずおか等で募集します。

今までの活動状況

H11.4.18
ボランティア組織「静岡医療コミュニケーション研究会」を発足

医療者のコミュニケーショントレーニングに寄与する「模擬患者」及び指導者となる「ファシリテータ」を養成し、医療機関等で活用してもらうことと、患者の医療者へのコミュニケーション向上を支援する市民啓発事業を目的として発足した。当初の会員は市民ボランティア30人、医療者18人。

H11.4.29
ファシリテータ研修会

医療者を対象に指導者となるための基礎を学習

H11.5.9
模擬患者研修会

市民ボランティアを対象に模擬患者となるための基礎を学習

H11.6～
模擬患者練習会

月に1回程度、模擬患者を養成するための練習会を開催

H11.8.25
聖隷三方原病院（浜松市）の視察

インフォームドコンセントやセカンドオピニオンなどの実施状況を視察

H12.2.7
第1回「医療者のための模擬患者セミナー」

静岡県立総合病院において、院内の医療者を対象に本会で養成した模擬患者を使った研修会を開催

H12.3.5
講演会「かしこい患者になりましょう～情報開示の時代を迎えて」

静岡県労政会館の大ホールにおいて、ささえあい医療人権センターCOML（コムル）代表の辻本好子さんと聖隷三方原病院院長の新居昭紀さんの講演と対談を開催

H12.6.8
第2回「医療者のための模擬患者セミナー」

静岡済生会総合病院において、模擬患者を使った研修会を開催

発行
静岡医療コミュニケーション研究会事務局
代　表　　渡辺　恵
副代表　　森田みつ子
（静岡市保健所・保健所総務課内）
TEL　054－255－7811